

マタイの福音書 第25章 13節

「だから、目をさましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないからです。」

電車の中を行ったり来たり移動している会社員がいた。だれかと待ち合わせをしているのかどうか。相手が乗車する場所に合わせるために移動をしているのかわからない。その人物がひょいと私の隣に座った。すると、間もなく身を電車の壁にあずけ眠り始めたように見える。特段注目していたわけでもないが、なんとなく様子がわかる。つまるところ、誰とも待ち合わせなどしていなかったことがわかった。しばらくして、ある駅で目を覚ました。そうしたら、どうも寝過ごしてしまい、いくつかの駅を通り過ぎたようである。ええ、といいながら、ここまで来てしまったと慌てて下車していった。彼の下車駅を知っていれば伝えられたが時すでに遅し。でも、引き返すことができる。

目をさましていなさい。電車での寝過ごしの話とは異なる。電車なら引き返せばよい。しかし、ここでの目覚めは天の御国の到来に目をさましていることである。御国到来のときに眠り込んでしまうなら、永遠に取り返しがつかないことになる。御国の王が招待しているとき、ところが目をさまし、その招きに応答する備えを整えておくべきだ。ところが眠っていて、せっかくの招きを失っては、破滅あるのみである。

2022年2月4日